

秀乃

はじめに

毎週 web 句会第 1 回から 100 回までで 5 句以上の入選がある方についておひとり 1 句、選者である森山文切がご紹介する企画です。入選句数が多い方(入選回数ではなく入選句の数)から順に、30 句以上入選の方は 2 人 1 ページ、30 句未満の方は 3 人 1 ページで掲載しました。

各句寸評をつけました。技術的事項が述べられる場合はできるだけ記載しています。技術は句において最重要とは思いませんが、選者としていろいろな角度で句を読むことに技術は必須と考えており、選において実際に考えたことを思い出しながら記載しました。

2016 年 4 月から開始し、5 句以上の入選があった方は 68 名。投句者のみなさまに支えられた 2 年間でした。今後も引き続きご投句いただきますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

平成 30 年 6 月 27 日 森山文切

\* 句評では「私」と「わたし」を分けて使用しています。「私」は森山文切のこと、「わたし」は句の主語としてのわたしです。

## 各投句者掲載ページ（五十音）

アゲハ	: 17	沢田正司	: 13	平井美智子	: 20
あそか	: 7	澁谷さくら	: 10	福村まこと	: 1
篤子	: 9	城崎れい	: 25	藤井智史	: 22
阿部千枝子	: 14	城水めぐみ	: 4	藤井康信	: 22
石森あやみ	: 11	鈴鳴うた猫	: 17	藤沢修司	: 7
井上一筒	: 16	たかこ	: 13	武良銀茶	: 5
塚山繁	: 9	孝代	: 18	べにすずめ	: 25
岩根彰子	: 10	たまき	: 12	星野睦悟朗	: 14
尾崎良仁	: 11	丹下凱夫	: 22	masayoshi	: 16
海賊芳山	: 8	次根	: 20	水たまり	: 24
風間なごみ	: 5	辻堂墟庵	: 21	宮坂変哲	: 27
かしくらゆう	: 4	ツボ	: 17	宮野みつ江	: 19
片山かずお	: 6	徳重美恵子	: 6	麦乃	: 3
芥子	: 21	敏治	: 1	むぎのあわ	: 19
喜屋武白雨	: 18	永見心咲	: 13	めぐむこ	: 16
くじょうまる	: 18	中矢長仁	: 26	森田旅人	: 14
くに	: 3	撫子	: 23	やっこ	: 15
くみくみ	: 24	西沢葉火	: 2	結城昭信	: 23
海月漂	: 27	葱坊主	: 26	由美	: 23
黒しま	: 27	八郎	: 21	夢香	: 24
御泉水	: 19	はな	: 15	よけだ	: 25
斎藤秀雄	: 20	ハッキー	: 26	若芽	: 8
さなえ	: 15	彦翁	: 2		

猛暑日にびくともしないカレーパン

福村まこと（第16回）

カレーとカレーパンを比べてみると、カレーパンの方が甘さや丸さのイメージが強いです。猛暑日とカレーは示すイメージが比較的近いですが、カレーパンにしたことでイメージに絶妙な距離が生まれました。びくともしない、も形あるものを想起させるので、カレーよりカレーパンとの相性がいいですね。

猛暑日のような厳しさに対抗するためには辛いだけではダメで、甘さや丸さも必要なのではないのでしょうか。

のっぽビルよ君にサンゴが見えますか

敏治（第24回）

ビルはBuildingの意味と人名のBillを考えましたが、アメリカを示すものとして後者と判断。

ビル君はのっぽ。足元が霞むくらいにのっぽでいつも威張っています。当然サンゴなんか見えていません。歩けばサンゴを踏んづける。踏んづけたことすら気付かない。たまにはしゃがみ込んでじっくり足元を見たらどうだい？

愛犬を信頼してる万歩計  
彦翁（第92回）

万歩計を擬人化した句。「してる」のい抜きには反対の方もおられると思いますが、この句の場合は軽さを引き立てていると判断しました。

愛犬を辞書で調べると「かわいがって飼っている犬」とあります。この万歩計、かなり飼い主よりの目線で愛犬を見ているのではないのでしょうか。飼い主もこんな万歩計より愛犬を信頼しているでしょう。

鉛筆が丸くなったら強い顔  
西沢葉火（第69回）

鉛筆は丸くなると折れにくくなります。人は丸くなると柔和になる、弱くなるイメージですが、実は丸い人の方が強い。「鉛筆は丸くなると折れにくくなる」というイメージの力で「丸い方が人として強い」という主張を強めています。

「なったら」なので、まだ丸くなっていないか、今まさに丸くなったところでしょうか。選者としては強い顔に気が付いた瞬間と読みました。

混ざりたくないからずっと「る」のカタチ  
くに（第69回）

「混ざりたくない」と「る」の形から体育座りを思い浮かべました。他の子はグループを組んでキャッキヤしている中、私だけ体育座りのまま。「形」と「カタチ」の比較では、漢字が「混」だけになり強調される点や、「カタチ」の方がぎこちなさを感じさせる点からカタカナの方がいいと感じました。暗くなりがちな主張ですが、「る」は「ルルル」という表現もあり、暗さを感じさせません。ポジティブな「る」です。

902・・・棚田の月を数えてる  
麦乃（第27回）

直感的に「いい句」と思いました。感性は論理で否定するべきではありません。

気になるのは902の必然性。音字数的には2か5、5は中七、下五ともに濁点があることもあり音が強くなりすぎ。2は格助詞の「に」と同じ響きである点は5より優位でしょうか。

千枚田に映る月を数えている途中で、大部分を数え終えたことを自覚している点に主張があります。

父だったひとだったはずだった父  
城水めぐみ（第45回）

この句の肝は「父」。これだけでは単語であって詩ではないですね。「父だった」で少し詩性が生まれますが、まだ不十分。「父だった父」これで詩としては成立します。父はもう昔の父ではないが、やっぱり父なのです。

さらに「ひとだったはず」を対象性が高い形の真ん中に配置して主張を強めています。

健忘症の父の介護を思い浮かべて辛くなりましたが、最後の「父」に思いが込められています。

お別れは握手ではなくじゃんけんで  
かしくらゆう（第20回）

握手もじゃんけんも基本的には手を出す動作は同じで、ここに感性の刺激があります。

じゃんけんなら明るく別れられそうですが、普通の握手で別れたくないという、「わたし」の相手への思いが感じられます。

ずっと「あいこでしょ」が続けばいいのに。

## 神様に会おう気がする山陰路 武良銀茶（第5回）

私は山陰出身（鳥取）ですが、少し田舎に行くと道が本当に暗い。たまに帰省するとこんなに暗かったかとびっくりします。しかしこの句も前出の「る」の句と同じで暗さを感じさせないのいいですね。何事もポジティブシンキングが大切。しかし本当に会ってしまったらどうするのだろう？貧乏神でなければいいのですが・・・。

## 感触はグーでミツバチもう翔ぶ気 風間なごみ（第82回）

「触」は昆虫と相性がいい。グーとミツバチも両方カタカナで濁点を含んでおり視覚聴覚ともに刺激があります。「グー」はチョコキ、パーを想起させるが、「パー」は翔ぶのオノマトペ的要素もあり、この点でもイメージがリンク。様々な要素でのリンクが心地よいです。

ミツバチはイメージトレーニングもバッチリ、やる気まんまんで仕事に向かいます。ずっと「グー」のままで仕事ができるのか、私自身を重ねてしまいました。

拳にも名前を書いて下さいね

徳重美恵子（第60回）

ネット社会になって匿名でのコミュニケーションが盛んです。匿名なので言いたい放題、罵詈雑言が並ぶこともあります。自分に都合のいい時にしか名前を明かさな社会。悪い点を指摘する時こそ、名前を明かす必要があると思っています。匿名の拳だらけの社会で「わたし」の気概を感じさせる一句。

シンプルな美とはこうだと目玉焼き

片山かずお（第52回）

私は目玉焼きが好きでよく自分で作りますが綺麗に作るのは難しいです（私が下手なだけ？）。油に引っ張られて端っこがビヨーンと伸びた状態になってしまい、ブサイク。黄身が割れてしまうこともあります。綺麗にできることももちろんありますが、その時はとても気持ちがいい。

綺麗な目玉焼きと日常のちょっとしたことに喜ぶ「わたし」が感じられます。

ドラえもんの耳なら闇鍋で食べた  
藤沢修司（第77回）

闇鍋には何が入っているかわかりません。持ってきたのはなんとドラえもんの耳。アニメのバージョンで諸説あるようですが、ドラえもんの耳はネズミにかじられてなくなったとされているので、ドラえもんの耳は「食べる」のイメージのに入ります。

ドラえもんの耳はそう簡単に手に入る代物ではないですよ。一体どんな人たちの集まりなのでしょう。ドラえもんの耳によって、闇鍋自体の怪しいイメージを更に膨らませることに成功しました。

伝説になった昭和の団子汁  
あそか（第49回）

伝説という大きな導入と、いかにも伝説にはならなそうな団子汁との対比がいい。かといって全くかけ離れているわけではなく「昭和の」団子汁なら伝説になってもおかしくはないと感じさせるのは不思議。昭和を使った句はたくさんあるのでありふれた表現だと埋もれてしまいがちですが、この句の表現には埋もれない強さがあります。

マネキンのR指定のふくらはぎ  
海賊芳山（第42回）

R の下の部分の形はふくらはぎのよう。上の丸い部分もふくらはぎの丸さとイメージのリンクがあります。

量販店の洋服売り場にはたくさんのマネキンが並んでいて、中には妙に色っぽいマネキンも。X 指定のマネキンは当然ダメ、R 指定でも子供がたくさん来るので難しいと思いますが、このマネキンはふくらはぎがR 指定とのこと。子供たちのはしゃぐ声を聞きながら、場違いなことを考えている「わたし」を感じました。

お化粧がとれてしまったので帰る  
若芽（第27回）

飲み会は楽しい飲み会ばかりではなく、途中で帰りたい飲み会もあります（ない人はシアワセ）。いろいろ言い訳を考えますが、周囲を納得させる理由を考えるのはなかなか難しい。

「お化粧がとれてしまったので帰る」

これは納得せざるをえない。しかもカワイイ。テクニックだとしたら、相当な手練。

真実はここよとバニーガールのぽんぽん  
篤子（第32回）

「真実はどこにあるか」は川柳ではよく用いられるテーマですが、「バニーガールのぽんぽん」ですか。バニーガールの耳でも胸でも網タイツでもなく、ぽんぽん。白くてふわふわしていて耳や胸より抽象的で、真実があるかもしれないと感じました。真実がそこにあるなら追いかける必要はありません。ぽんぽんがちょうどお尻の位置にあるだけで、決してバニーガールの尻を追いかけているわけではないことは申し添えておきます。

まっ白な人を好んでいる企業  
塚山繁（第38回）

日本で人材育成といえば短所を改善することが主眼に置かれがちでした。最近では短所より長所に注目する手法が主流です。この句のような企業は今後どんどん淘汰されるでしょう。AIが急速に進化しており、「人」を必要としない業種が増えていきます。自分の色をしっかりと持っている人材を多く抱えておかなければ、生き残ることは不可能です。川柳も同じですね。

持ち歩く傘が重たいこともある

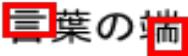
澁谷さくら（第19回）

傘は雨、濡れるなどネガティブなイメージがある言葉を想起させるので、重たいとは相性がいい。

「重たいこともある」ということは、重たくないこともあるということ。持ち歩くくらいの傘だから普段は重荷にはならないはず。身近な具象により「わたし」の心境がうまく表現されています。

リリーです言葉の端にいたリリー

岩根彰子（第82回）

まず形から考えると、「リリー」がこの句の端にいます。そして「言葉の端」の端にもリリーらしき形状があります（右  の赤枠部分）。

このような考え方は言葉遊びのようですが、サブリミナル効果やメンタリズムのように意識していなくても思考に影響します。

「文切です、沖縄の文切です」は私も実際に使うフレーズ。思い出してもらうためのフレーズが「言葉の端」とは面白い。「君はいつも言葉の端にいるね」などと言われたことがあるのでしょうか。だとしたらその人はリリーの最大の理解者です。

傷ついた舌流暢に語り出す  
石森あやみ（第27回）

痛いところを突っ込まれたり、プライドが傷つけられたりすると自分でも考えもしないくらいに言い返してしまうことがあります（ない人はシアワセ）。この句の「語り出す」は客観的で、「わたし」ではなく「舌」が語り出している点も客観的視点を強調しています。語り出したら自分で止めたくても止められないことが、客観性により強められています。

ヤクルトを二本飲んだら悪ですか  
尾崎良仁（第74回）

具体性が高い。「おと一さん、ヤクルト勝手に飲んだでしょー！サイテー！」と聞こえてきそう。「ヤクルト」「二本」という具体性がある、点の表現だからこそ心に響く。ヤクルトの味、色、大きさ、形も句の印象に影響しています。例えば、  
牛乳を二本飲んだら悪ですか  
羊羹を二本食べたら悪ですか  
とは全然違う。「ヤクルト二本」の見付けに拍手。

過去形になってはくれぬ片思い

たまき（第57回）

過去形になってほしいくらいなので辛い恋なの  
のでしょうか。相手のことをあまりよく知らない  
片思いの場合はあれこれと妄想が膨らんで楽し  
い片思いになります。よく知っている間柄だと  
見込みがないことを悟って辛くなってしまいま  
す。でも次の恋が始まるとすぐさま過去形になる  
はず。次の恋を待ちましょう。

セーリング瀬戸内海は試歩の風  
永見心咲（第55回）

海で競い合うセーリングを眺めながら、瀬戸内海から吹く爽やかな風を感じています。歩く訓練はいきなりうまくはいかないかもしれませんが、この前向きさがあればセーリングのようにスイスイと歩ける日も遠くはなさそうです。

具象画しか描けぬ女でいじっぱり  
たかこ（第9回）

絵の話だが川柳にも当てはまります。私はどちらかというところ抽象画タイプの川柳が好きですが、だからといって具象画タイプの人を中傷しようとは思いません。お互い意地を張りながら、でも尊重しあって、共に歩めばいいんです。

輪を抜けてはっきり見える輪の形  
沢田正司（第54回）

何事も自分が当事者であるうちは全体像が見えてきません。少し離れて眺めてみて初めて理解できます。この句の場合少し歪んだ輪なのでしょうが、まだ「輪」と認識できています。「わたし」が輪に戻れば綺麗な輪になるかもしれませんね。

温もりを求めて夜の交差点

阿部千枝子（第84回）

田舎の生まれの私からすると「夜の交差点」は人があまりいなくて却って寒くなりそうですが、都会の交差点は夜も人がいっぱい。でも人がいっぱいでも都会の交差点で温もりって感じられるのかなあ……。もしかして、ナンパ待ち？

指の先乾いてスマホ動かない

森田旅人（第67回）

スマホがうまく反応してくれない時、ありますあります。でも乾いているのは指先だけではなさそうですね。誰かにふーふーしてもらいましょう。

脱獄の気分に浸る定年後

星野睦悟朗（第41回）

人により定年後は投獄されたような気分になりそう。脱獄ですから自由を感じるだけではなく、どこかで「追われている」というような複雑な感覚もありそうです。

平成に褒められるようラストラン  
はな（第 81 回）

「わたし」も平成と同じようにラストランに差し掛かりましたか。でも平成とは違って終わりはまだはっきりとはしていないはずです。自分ではラストと思っている、先は長いかも。

年末になるとそわそわする右手  
やっこ（第 36 回）

年末になると何かと忙しくそわそわしてしまいがち、当たり前といえば当たり前ですが、「右手」の限定が効いています。厄介な右手ですね。左手の落ち着きを見習ってほしいものです。

新しいノートに記すケアプラン  
さなえ（第 14 回）

「新しいノート」がとても前向きに感じました。介護は大変でうつむいてしまいがちですが、本人も介護される人もみんなに無理のないプランが大切ですよね。

カーテンもそろりと揺れる新天地  
めぐむこ （第 52 回）

大学進学で沖縄に来てかれこれ 20 年になりますが、途中 2 年ほど仙台で仕事をしました。仙台に引っ越してまずやったのがカーテンを買うこと。新しいカーテンの匂いを感じながら、新天地でうまくやっていけるのか、期待と不安を覚えたのを思い出しました。

天麩羅定食の影が長くなる  
井上一筒 （第 15 回）

天麩羅定食で影が長くなる要素、海老天でしょう。直視できないほど豪華な。天麩羅定食の象徴である海老天の影が落日に伸びてゆく。海老天＝首相、天麩羅定食＝日本という読みもできる・・・が、「わたし」の不安は単に胃もたれかも。

罪名は付かない雨の横殴り  
masayoshi （第 83 回）

技術的には「殴り」と「罪」にイメージのリンクがあります。人を殴ると傷害罪という罪名がありますが、雨には罪名はつきません。たとえそれが、ふられた後の罪な雨だったとしても。

コーヒーミルゴリッと意地が砕かれる  
アゲハ（第94回）

コーヒーミルを回す動作と豆が引かれる音のリズムって不思議な心地よさがありますよね。でもたまにゴリッとリズムが乱れます。あれって「意地」だったんですねえ。動き、音がうまく取り入れられています。

高校も順路に入れる選挙カー  
ツボ（第11回）

時事吟ですね。高校生も選挙権を持ちました。しかし授業に支障ない範囲でと決められているようで、候補者からすると難しさもありそうです。授業中にうるさかったら票を失うかもしれませんからね。いや、むしろ票が増えるのか……。

置き去りにされたばかりの蜚気楼  
鈴鳴うた猫（第65回）

置き去りにされなかったら生まれなかった蜚気楼。水平線に見える船か、アスファルトの逃げ水か。置き去りにされたのは「わたし」の方かもしれません。

ダイエットしたか秋刀魚もスリムなり  
孝代（第82回）

秋刀魚は言われてみれば確かにスリムですが、秋刀魚がスリムかどうかは普段あまり意識したことはありません。「わたし」がダイエットしているからこそその視点です。

再出発するにはちょっと赤がいる  
くじょうまる（第57回）

「ちょっと」が効いています。再出発するための勇気をくれる赤。たくさんは要らない、「ちょっと」でいい。前に進みたいけど進むことができないもどかしさが「ちょっと」に込められています。赤をハンコと読むとまた違った趣きがあります。

缶切りでキコキコきみの海開ける  
喜屋武白雨（第25回）

「き」の音が4つリズムよく含まれていて心地よい。「缶切りでキコキコ」という庶民的な導入から、「きみの海開ける」という壮大さへの流れもいいです。缶切りで海開きじゃ～！

合コンは無縁ですのせんべろで  
むぎのあわ（第93回）

実感が溢れすぎている句。スンバラシイ。私もせんべろよくやります。だいたい一人で立ち飲み屋。イヤイヤ、私は合コン無縁ってわけじゃねえんですよ。昔はモテたんだ、ムカシはよお。

裏口に父が来たらしミカン箱  
宮野みつ江（第30回）

「父」が見えます。どんなお父さんか、「わたし」とどうゆう関係を築いてきたか。「ミカン」のオレンジ色や丸さも句のイメージに一役買っています。メモも電話もよこさない父。連絡はいつも「わたし」から。

右からも左からも救急車  
御泉水（第99回）

「わたし」はキューとキューの間にいるんでしよかね。何か大事のようですが、「わたし」に当事者感はありません。第99回の入選句なのは完全に偶然です。

廊下埋め尽くし鳩が知らせにくる  
斎藤秀雄（第95回）

廊下一面の鳩が見えました。この句も一大事ですが、救急車の句とは違って当事者です。一体どの鳩の手紙を読めばいいんでしょうか。片っ端から読んで、多数決にしましょうか。

チョコボールぱおぱおぱおと噂好き  
平井美智子（第100回）

キョロちゃんの鳴き声なら「クエックエックエ」じゃないのかと思いましたが、それだと事実を述べただけになってしまいます。噂の怪しさとぱおぱおぱおの響きのイメージをうまくリンクさせました。でもちょっとズルいかな。

メモの句が息をしていたごみの中  
次根（第6回）

すぐに救い出して蘇生しなければ。まだ息はあります。一回ごみ箱に行ったのに息があるのに気がついたのですから、この句は何か持っています。没だったら選者を恨みましょう。

ご自由にどうぞバザーの端の僕  
辻堂墟庵（第46回）

フリマで物を売るのは難しい。競合する他の出店者との兼ね合いもあるようです。（自分の店より安かったりすると嫌がらせを受けたりするらしい）。もういっそ僕を持って行ってちょうだい。

新聞の取材もっぱらSNS  
八郎（第95回）

SNSが盛んになって、取材のネタをSNSから得る記事が増えてきました。取材も現地に行かずSNSのみで終わらせることも多いようですね。

「足で稼ぐ」という時代は終わってしまうのでしょうか。さみしい限り。

ご先祖はニライカナイの半魚人  
芥子（第74回）

ニライカナイは沖縄の言葉で、「神の国」を示すものです。久高島がニライカナイであるとか諸説あるようですが、島なら半魚人が神様に仕えていてもおかしくないですね。

単に魚に似ているのではない、神に仕える半魚人に似ているのだ。どうだ、スゴイだろ。

部分点集めて君をゲットする

藤井智史（第93回）

部分点だけではいくら集めてもオトモダチまででしょう。カレシに昇格するためには一気の大量得点が必要です。ある程度部分点を貯めたら、覚悟を決めて一気に攻めましょう！

遊歩道には一円も落ちてない

丹下凱夫（第62回）

自動販売機の周りなら一円どころか百円も落ちていられるかもしれませんが、気持ちのいい遊歩道で財布を出す人は少ないでしょう。遊歩道を歩く時くらいはオカネのことは忘れましょうね。

唄ったら気持ち良くなるから不思議

藤井康信（第74回）

カラオケでストレス発散！普段大きな声を出す機会はないし！今日は歌うぞ～

ん、なんか周りにはしかめっ面ばかりだな。  
あれっ、あの人は耳をふさいでいる。

なんでだろう？

ノーアイロンシャツにアイロンして決める  
由美（第3回）

何か決めなければならないことがあるようですが、少なくともとても重大なことではなさそうです。でも何かしないと決められない、その何か「ノーアイロンシャツにアイロン」すること。悩み具合が絶妙な表現で示されています。

背伸びする癖はそろそろ止めにする  
結城昭信（第6回）

何事もつつい背伸びしてしまいがち。少しずつ盛った話が積もり積もって自分の首を絞めることになります。もう止めにしたいけど、「そろそろ止めにする」自体がもう背伸びしているかも。

松茸がなにさ新米栗ご飯  
撫子（第78回）

そうそう、背伸びしないのが一番です。国産松茸なんて確かに美味しいけど、値段を知っていたらもう楽しく食べることができませんよね。おごってもらうのなら大歓迎ですが・・・。

泳力をつけた織女が逢いに来る  
水たまり（第12回）

織姫と彦星は会えるのは年1回ですが、この織女は自分で泳いで会いに来てくれるそうです。相当な泳力が必要になりますね。「わたし」はただ待っているだけでいいのですか？

観客はいないけれども主人公  
夢香（第46回）

そうです。自分で決めればいいんです。主人公を主人公たらしめているのは観客ではなく主人公の自覚です。ずっと続けていればそのうち観客も増えてくるでしょう。

水色を作るパレットなら胸に  
くみくみ（第100回）

水色のイメージがうまく取り入れられています。パレットはあるけどまだ水色は作られていないかもしれませんね。パレットはあると断言できるのですから、思いっきりあなたらしい水色を作ってくださいな。

ぬるいビール冷やし忘れたのはワタシ  
べにすずめ（第15回）

それはもう仕方ないです、自己責任でぬるいま  
ま飲んでください。なあと、2、3本飲んだらぬ  
るいか冷たいか自分でもわからなくなりますよ、  
きっと。

純粋な反旗をプロに汚される  
よけだ（第60回）

「プロ市民」という言葉があります。純粋な市  
民活動を利用して利権を得ようとするのは許せ  
ない行為です。利用されないように気をつけなけ  
ればなりませんよね。

チケットレス特急の席味気ない  
城崎れい（第59回）

私は出張でときどき特急に乗るのですが、チケ  
ットレスが増えました。席の上にあるランプで予  
約されているか確認できるタイプもあります。便  
利にはなりましたが、どこか味気ないですよ。ね。  
素直な実感句です。

ガラクタも捨てる勇気がありません

中矢長仁（第16回）

物を捨てるのは本当に難しいです。私は捨てられない時は、まだ捨てるときではないのだと考えるようにしています。しかるべき時が来たら、ガラクタの方から捨てていいと言ってきますよ。それまで待ちましょうか。

鍋磨く爺婆だけの四コマ目

葱坊主（第14回）

すごいオチですね。どういう流れでこのオチになったのでしょうか。爺婆以外にも鍋を磨いていたのか、はたまた鍋以外のものを磨いていたのか。想像をかきたてる表現です。

慣れっこよいつも遅れる路線バス

パッキー（第73回）

20年前沖縄に来た時は本当に実感しました。でも最近はかなり改善されたんですよ。手を挙げなくても止まってくれます。当たり前といえば当たり前なんです、沖縄らしさをなくしてしまったようで、ちょっと寂しい気もしています。

さみしいと連呼しているオウムたち  
海月漂 （第 96 回）

「わたし」がさみしいと連呼しているのでしょうか。オウムたちは励ましてくれているのかもしれませんがね。複数のオウムの鳴き声と「わたし」のさみしさの対比が効いていると思います。

貝殻の中に閉じ込められた音  
宮坂変哲 （第 57 回）

思い出の音がします。出してほしいと訴える音。たまには貝殻から出して開放してあげましょう。沖縄の海がぴったりです。ぜひ沖縄にいらしてください。

廊下の砂誰かの靴の中の砂  
黒しま （第 100 回）

小学校の廊下を思い出しました。なぜか砂がたまるんですね。誰かと一緒に遊んで、一緒に廊下までやってきた砂。みんなの授業中、砂同士集まってどんな遊びをしているのでしょうか。

毎週 web 句会秀句集 1

発行人 森山文切

編集所 毎週 web 句会

<http://senryutou-okinawa.com>